

第三十二回夕暮記念こども短歌大会入賞歌 中学生の部

No.	賞名	作品	学校名	学年	氏名
1	秦野市長賞	青 <small>あざ</small> 紫 <small>むら</small> 紺と染まりゆく窓という名の大きなキャンパス	鶴巻	2	岩田 夏季
2	秦野市教育委員会教育長賞	「すみません」つなぎつなぎの英語でも通じた喜び忘れやしない	本町	2	高橋 美宇
3	秦野中ロータリークラブ会長賞	夏の夜静かに祖父と向かい合うパチリパチリと響く駒音	南	2	飯田 悠太
4	寺尾登志子選者賞	グラウンドのやまない風に気を取られ投じた一球緑の中へ	南	2	相原 和輝
5	寺尾登志子選者賞	みずたまり映る景色の向こう側明るい自分が生きている	南	3	嶋本 里海
6	佳作	アンコール弾いてしまうと引退だこのままずっとタ・カーポにして	相模原中等教育学校	2	石井 李咲
7	佳作	猛暑の日汗を垂らして全力で音色に乗せて息を吹き込む	南	1	木村 颯希
8	佳作	部活中両音だんだん近づいてみんな必死に木かけへ逃げる	南	1	小島 美咲
9	佳作	セミしぐれ聞いているのは一人だけいつでもそばに居たいだけなのに	南	2	濱地 涼子
10	佳作	ただいまと帰る私を出迎える君の姿を思い出す雨	渋沢	1	月村 緋里
11	佳作	こうやって短歌かくのに悩むとき思い出すのは戻らぬ過去たち	南	2	山口 瑠夏
12	佳作	遠くまで海の一線広がって電車と走る鎌倉の旅	東	2	萩原 龍政
13	佳作	みんなとの会話が弾む江ノ電はどこでも行けるそんな気がする	東	2	青木 城
14	佳作	参道のまわりをかこむ竹林の葉からこぼれる太陽の光	東	2	高橋 颯太
15	佳作	思い出とは小さなピースの集まりで私の宝は笑顔のピースだ	南	2	佐藤 那伎
16	佳作	とめどなくひと足入れば香薫 <small>かほ</small> 風 <small>かぜ</small> ここは異国かそれとも母国か	西	2	勝谷 涼太
17	佳作	中華街肉まんほおぼる君見ると心ドキドキこれは恋かな	本町	2	三浦 嵐統
18	佳作	人混みをはぐれぬように進んでく連絡通路に響いた点呼	渋沢	2	小池 茜
19	佳作	浜の風からだに慣れずとおりすぎやっぱり好きな渋沢の丘	渋沢	2	諸星 りほ
20	佳作	台風がおつたあとのあれた海流木が言う波の強さを	南	1	川口 晴菜
21	佳作	海に行き愛犬波に飛びかかり波はにげだしつかまえられず	南	1	加藤 若葉
22	佳作	ひよこを宝石のように包みこむ孫の手の平包みこむ祖母	西	2	小林 彩奈
23	佳作	高く跳び仲間の思い込めて打つつかは壊す二年の壁を	南	1	飯田 卯月
24	佳作	夏の夜花火大会来たけれど雲にかくれて雲が色づく	南	1	原 一はる
25	佳作	ビル並ぶテレビの中の都会より心やすらぐ秦野の緑	南	1	松永 真紗登